

習志野市の歴史・文化財

遺跡 神社 天然記念物
 建造物 寺院 他 その他
 石造物 軍隊跡

習志野市指定文化財 国登録文化財

1 庄司ヶ池跡 他 地図 A2

現在の第一中学校周辺に大江時代初期まであった池。大雨による氾濫で付近の畑に侵食された跡を有していたことから、大正3年(1914)に池の水を東京湾に流す排水工事をした。池は姿を消しました。この工事の経緯は丹生神社境内の排水記念碑に記されています(※参照)。

池の周囲3か所には水の神である弁天様が祀られ、「上の弁天」「中の弁天(与兵衛弁天)」「下の弁天」と呼ばれていました(現在は各所首尾に移転)。



2 谷津貝塚 市選 地図 A2

秦の杜一丁目~三丁目、谷津一丁目~五丁目にかけて広がる遺跡。旧石器時代・縄文時代・奈良時代・平安時代・中世・近世にわたる複合遺跡ですが、中心は奈良時代・平安時代(7世紀末~10世紀前半)の大規模な集落です。

竪穴住居跡、掘立建物跡などの遺構のほか、土師器・須恵器などのやきもの類、農具・漁具として使われた石製品・鉄製品、食用にされたと思われる貝類をはじめ、遺物も大量に出しています。出土品のうち、墨書土器、瓦器、銭貨、金属製品4件、計40点が市の指定文化財です。

谷津奥の社公園内に説明板が設置されています。



3 丹生神社 神 地図 A3

谷津村の産土神で、祭神は丹生都比売命。江戸時代末に伊弉冉尊を合祀したとされています。承応4年(1655)に紀伊国(和歌山県)の丹生都比売神社の祭神丹生都比売命を勧請して創建されたといわれる神社で、最初の拝殿は宝暦13年(1763)に建てられましたが、現在の社殿は文化8年(1811)に建てられたといわれています。

境内には、庄司が池排水記念の碑などがあります。(庄司ヶ池跡 #1参照)



4 西光寺 寺 地図 A3

真言宗。創建年次は不詳ですが、近世初期には創建されていると考えられます。谷津村の檀那寺。本尊は阿弥陀如来。明治8年(1875)から谷津小学校として使用されています。

習志野七福神の毘沙門天礼所。



5 東福寺 寺 地図 A3

真言宗。天文元年(1532)以前の創建といわれています。谷津村の檀那寺。

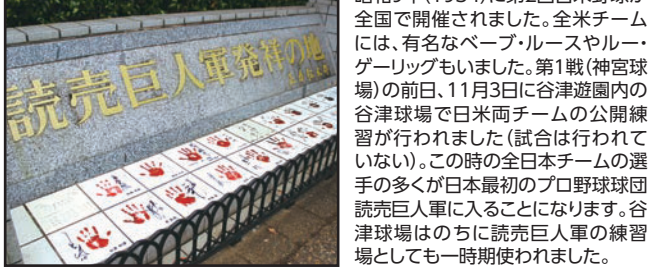
本尊の薬師如来。天平2年(730)に僧行基が難病平癒のために彫刻し、天文元年(1532)に老僧が東福寺を移し置かれたものと伝えられます。

習志野七福神の恵比須天礼所。



6 読売巨人軍発祥の地碑 他 地図 A3

昭和9年(1934)に第2回日米野球が全国で開催された。全チームには、有名なペーパースーツやルーレーツも含まれた。第一試合(神宮球場)の前日、11月3日に谷津遊園内の谷津球場で日米両チームの公開練習が行われました(試合は行われていない)。この時の全日本チームの選手も多くが日本最初のプロ野球団体読売巨人軍に入ることになりました。谷津球場はのちに読売巨人軍の練習場として一時も併用されました。



7 伊藤新田(塩田)・谷津遊園跡 他 地図 A3

伊藤新田(塩田)は明治期に伊藤第一が拓いた塩田。明治32年には塩業調査所新田試験場が設置され、製塩技術の研究が行われました。明治44年の台風による高潮で破壊されたらしく、試験場は船橋に移転。大正14年(1925)には、京成電軌株式会社(現京成電鉄)がこの地を買収し、谷津遊園を開園しました。

マンモスプール、ジェットコースターなど多くのアトラクションを備え、昭和57年(1982)に閉園するまで首都圏有数の行楽地として親しまれました。



8 千葉工業大学通用門(旧鉄道第二連隊表門) 登軍 地図 B2

千葉工業大学の通用門の煉瓦造門柱4基は、旧陸軍の鉄道第二連隊の表門として使われていたものです。鉄道第二連隊の施設の建造物として残っていた貴重な遺構として、平成10年(1998)に、国の有形文化財に登録されました。



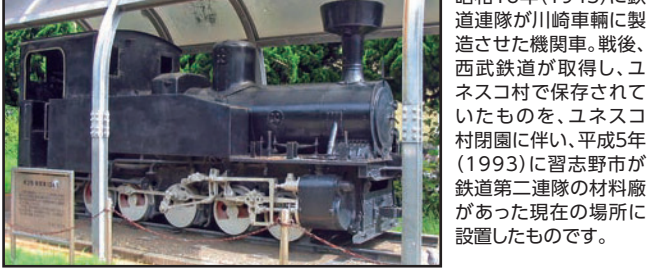
9 旧陸軍鉄道連隊跡 軍 地図 B2

鉄道線は戦地で鉄道の敷設や運転、破壊に従事する部隊。東京中野にあった鉄道大隊が日露戦争後の明治40年(1907)に連隊に昇格し、千葉と津田沼に移転しました。津田沼には第三大隊が置かれ、大正7年(1918)に鉄道第二連隊に昇格した。総武線津田沼駅の南側に本部と兵舎、演習場など、北側に材料廠・演習線停車場がありました。



10 K2形機関車 軍 地図 B2

昭和18年(1943)に鉄道連隊が川崎車輛に製造させた機関車。戦後、西武鉄道が取得し、ユネスコ村で保存されていたものを、ユネスコ村閉園に伴い、平成5年(1993)に習志野市が鉄道第二連隊の材料廠があった現地の場所に設置したものです。



11 菊田神社 神 地図 B3

久々田村(眞津田沼)の産土神で、祭神は大己貴命(大国主命)。治承5年(1181)にこの地に来た藤原師隆が先祖の藤原時平公を合祀したといわれています。

平安時代初期の弘仁年間(810~823)の創建とされます。久々大明神と称しましたが宝暦年間(1751~1764)に菊田神社と改称したといわれます。千葉県指定無形民俗文化財である「下総三山の七年祭り」に参加する一社。役割は紋父。



16 菊田遊歩道(菊田川) 他 地図 B3

菊田川は、現在の船橋市の滝台・田喜野井・三山を上流として、藤崎、久々田、鷺沼を経由して東京湾に流れる川。現在はほとんどが暗渠(地下の水路)化しています。菊田遊歩道は暗渠化した菊田川の河川沿いに作られました。



17 鷺沼古墳 市選 地図 B3

鷺沼城址公園周辺の数基の古墳からなる古墳群。城址公園内にある2基の古墳は、昭和41年(1966)の調査で全長20~25mの竪立円形の前方後円墳であることが確認されました。西側のA号墳は下総型円周溝輪を出土し6世紀後半と推定。東側のB号墳は、追輪が出土せず、2基の石棺が発見され、6世紀後半と推定。2基の石棺のうち1基は、南房総から運ばれたと考えられる砂岩・凝灰岩を用いています。この石棺からは成人男性2人分の骨片が発見され、直刀破片・土玉・鉄鏝・刀子などの副葬品も出土しました。石棺は昭和51年(1976)に市指定史跡となっています。



18 根神社 神 地図 B3

鷺沼村の産土神で、祭神は面足命・檀根命・素戔嗚尊・瓊瓊杵命。創建年次は不詳ですが、一説には平安時代中期の創建といわれています。

享保17年(1732)に本殿が再建され、安政5年(1858)には拝殿が再建されています。



19 慈眼寺 寺 地図 B3

真言宗。創建年次は不詳ですが、近世初期にはすでにあったと考えられます。鷺沼村の檀那寺。本尊は聖観世音菩薩。本堂裏には、慈眼寺の手習塾(いわゆる寺子屋)に学んだ生徒たちが法印清伝師を偲んで建立した筆子塚があります。

慈眼寺は明治7年から鷺沼小学校として使用されました。敷地内には、明治期にカキ養殖を進めた伊東佐次兵衛を記念する碑もあります。習志野七福神の大黒天礼所。



24 子安神社 神 地図 B2

藤崎村の産土神で、祭神は素戔嗚尊と稻稻姫命。創建年次は不詳ですが、一説には治承4年(1180)の創建と伝えられています。現在の拝殿は昭和58年(1983)に再建されました。



25 正福寺 寺 地図 B2

真言宗。創建年次は不詳ですが、近世初期には創建されていると考えられます。藤崎村の檀那寺。本尊は聖観世音菩薩。明治7年から藤崎小学校の校舎として使用されました。

習志野七福神の布袋礼所。



26 筆子塚(正福寺) 石 地図 B2

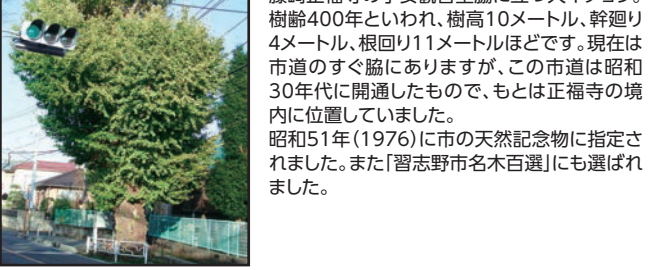
正福寺観音堂の脇にある筆子塚は、安政5年(1858)に亡くなった正福寺の手習塾の師匠匠久保伊三郎を偲んで、弟子たちが立てたものです。



27 藤崎正福寺大イチョウ 市天 地図 B2

藤崎正福寺の子安神堂脇に立つ大イチョウ。樹齢400年といわれ、樹高10メートル、幹回り4メートル、根回り11メートルほどです。現在は市道のすぐ脇にあります。この道は昭和30年代に開通したもので、もとは正福寺の境内に位置していました。

昭和51年(1976)に市の天然記念物に指定されました。また「習志野市名木百選」にも選ばれました。



28 藤崎古道 他 地図 B2

東金(御成)街道が開通する以前の旧道と言われ、樹齢400年といわれ、樹高10メートル、幹回り4メートル、根回り11メートルほどです。現在は市道のすぐ脇にあります。この道は昭和30年代に開通したもので、もとは正福寺の境内に位置していました。



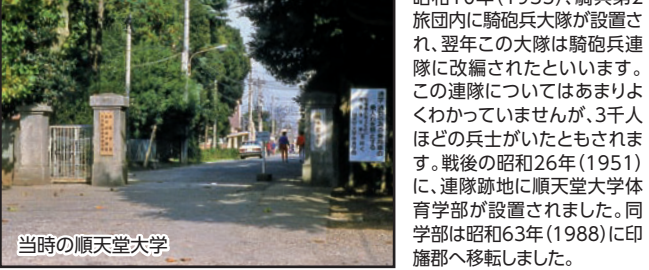
29 木曾王森林鉄道 機関車 他 地図 C2

長野県木曾王森林鉄道で使用されていたディーゼル機関車。昭和50年(1975)までヒキヤクワラなどの材を運んでいた。その後、森林鉄道の廃止に伴い、昭和51年(1976)に本市が譲り受けました。



30 騎砲兵連隊跡(順天堂大学跡) 軍 地図 C2

昭和10年(1935)、騎兵第2旅団に騎砲兵大隊が設置され、翌年この大隊は騎砲兵連隊に改編されたといわれています。この連隊についてはあまりよくわかっていませんが、3千人ほどの兵士がいたとされます。戦後の昭和26年(1951)に、連隊跡地に順天堂大学医学部が設置されました。同学部は昭和63年(1988)に印刷部へ移転しました。



31 陸軍習志野衛戍病院跡 軍 地図 C2

明治34年(1901)、騎兵第一旅団の開設に伴い「習志野衛戍病院跡」が設置された。衛戍病院跡は、陸軍将校の衛戍病院ですが、大正12年(1923)の開業成り功後昭和4年(1929)の台風の際には、住民に対する治療も行いました。戦後、病院は国立習志野病院となり、現在は社会福祉法人恩賜財団済生会へ経営譲渡され、千葉県済生会習志野病院となりました。



33 騎兵第14連隊跡・戦車第二連隊跡 軍 地図 C2

騎兵第14連隊は、明治34年(1901)に設置。騎兵第13連隊とともに騎兵第一旅団を構成。現在の日本大学生産工学部付近に所在していました。昭和7年(1932)に満州に移転しました。騎兵第二連隊が置かれ、満州の「騎兵第十四連隊発祥之地」碑が残されています。

※見学をされる場合は学校の許可を得るようお願いします。



34 騎兵第15連隊跡 軍 地図 D2

騎兵第15連隊は、明治34年(1901)に設置。騎兵第16連隊とともに騎兵第二旅団を構成。昭和16年(1941)に解除し、騎兵第16連隊跡地に移転しました。騎兵第73連隊が編成され、満州に移転しました。跡地には跡地にあった陸軍習志野学校が拡張しました。現在、跡地は東邦大学付属東邦中学校・高等学校になっていました。



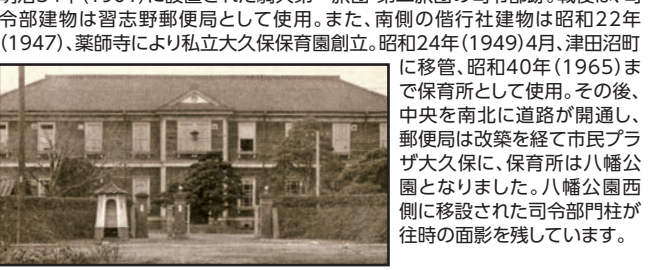
35 騎兵第16連隊跡・習志野学校跡 軍 地図 D2

騎兵第15連隊は、明治34年(1901)に設置。騎兵第16連隊とともに騎兵第二旅団を構成。昭和8年(1933)、満州に移転した騎兵第13連隊跡地に移転しました。騎兵第16連隊の跡地には陸軍習志野学校(香ガス戦の教育研究機関)が設置されました。騎兵第16連隊は昭和16年(1941)に解除し、騎兵第15連隊とともにその主力で騎兵第73連隊が編成され、満州に移転しました。習志野学校は終戦まで存続し現在、跡地は市営住宅等になっています。



36 騎兵第一第二旅団司令部跡 軍 地図 D2

明治34年(1901)に設置された騎兵第一旅団・第二旅団の司令部跡。戦後は、司令部建物は習志野郵便局として使用。また、南側の信託社建物は昭和22年(1947)、美術師により私立大久保保育園創立。昭和24年(1949)4月、津田沼町に移管。昭和40年(1965)まで保育所として使用。その後、中央を南北に道路が開通し、郵便局は改築を経て市民プラザが久保に、保衛局は八幡公園となり、保衛局跡地は八幡公園西側に移された司令部門柱が往時の面影を残しています。



37 菅田八幡神社 神 地図 D2

大久保新田の産土神で、祭神は菅田次之助(1673~81)。延宝年間(1723~1734)に大久保新田の開拓である市角頼が、河内国古市郡菅田村(現大久保羽曳野市)より勧請して創建したといわれています。当初の場所は本大久保二丁目の富士見公園付近で、その後現地に移されました。現在の社殿は安政2年(1855)改築。



38 薬師寺 寺 地図 C2

真言宗。大久保新田の開拓に際して創建されたといわれています。菅田八幡神社(※参照)は、創建当初、この地に建立されたといわれています。



39 菅田八幡神社旧跡碑 神 地図 C3

大久保四丁目に所在している菅田八幡神社(※参照)は、創建当初、この地に建立されたといわれています。



40 花咲貝塚 遺 地図 C3

昭和45年(1970)に宅地造成に伴って発見。遺跡は地上から台地斜面の低地に近い部分までに広がっていると考えられます。縄文時代早期後半(約7千年前)の竪穴住居跡1軒が発見され、同時期の土器・石器も出土しました。貝塚にはハマグリ・ハイガイ・オイシロシロミ・カキ・サルボウで構成。(大久保1号児童公園内に説明板)



41 天津神社 神 地図 D3

屋敷台新田の産土神で、祭神は天御中央大神。室町時代に、馬加城主の馬加氏が屋敷台に一時移り住んだとき、守護神の妙見菩薩を祀ったのが始まりといわれます。妙見菩薩と現祭神の天御中央大神は神仏習合の下では同一視されていました。元は妙見堂と称されており、江戸時代に天津神社と改称したといわれますが、明治初期の神仏分離で改称されたともいわれています。



42 大宮大原神社 神 地図 D2

大原神社は実稲村の産土神で、文徳元年(1592)の創建とされます。祭神は伊弉冉尊。明治41年(1908)に伊弉冉尊を祭神とする大宮神社を合祀。以後、夫婦神であることから縁結びの神とされます。千葉県指定無形民俗文化財である「下総三山の七年祭り」に参加する一社。役割は紋母。



43 無量寺 寺 地図 D2

真言宗。創建年次は不詳。古くは尼寺で、武石氏の祈願寺として愛敬。東金(御成)街道造成の際に再興したといわれます。実稲村の檀那寺。本尊は阿弥陀如来。聖観音菩薩を信仰して。明治6年から実稲小学校として使用されました。習志野七福神の寿老人礼所。



44 習志野俘虜収容所(ロシア)跡 軍 地図 E2

日露戦争時、ロシア兵捕虜を収容した収容所。明治38年(1905)に開設し、翌年閉鎖されるまで最大で5万人のロシア兵捕虜を収容した。当初は天幕か月後、捕虜完成は約1か月後。建物を見物する人々が大勢詰めかけたといわれます。この地には以後、高津庵舎やドイツ兵捕虜収容所も設置されます。



45 陸軍習志野演習場 高津庵舎跡 軍 地図 E2

習志野軍演習場で演習する兵士のための仮宿舎。学生の軍事教練でも使用されました。習志野演習場に付属する仮舎はもともと成田遊園地にありましたが、日露戦争時のロシア兵捕虜収容所跡だったこの地に、大正時代初期に移されたと考えられます。高津西庵舎と高津東庵舎に分かれていました。



46 習志野俘虜収容所(ドイツ)ドイツ捕虜オーケストラの碑 軍 地図 E2

第一次世界大戦時、東習志野に開設された習志野俘虜収容所(1915-1920)で、ドイツ兵捕虜が人道的な待遇のもと、オーケストラ活動を行っていたことを記念する碑。第一次大戦終結9年(1918)の平成20年(2008)に、収容所跡地に建てられました。当時、この収容所では最大で約千人のドイツ兵が生活していました。



47 旧陸軍演習場内圍壁 登軍 地図 E2

日本軍の大陸進軍の演習用として、昭和9年(1934)に工兵第1大隊作業隊により建設された。壁には銃眼の跡があります。旧陸軍が演習に使用した。現存する数少ない建造物として貴重な遺産であり、平成14年(2002)に、国の登録有形文化財に登録されました。

※敷地内に見学等はご遠慮ください。



48 駒止谷跡 他 地図 D1

現在の八代台東から東習志野七丁目に至る谷。民話「駒止谷」(実稲本郷公園の民話の広場で紹介)の舞台といわれています。



49 号砲台跡 軍 地図 D1

陸軍習志野演習場で演習している兵士に正午を知らせるために空砲を打った場所。号砲台とも呼ばれました。現在、日鉄5Gワイヤ株式会社習志野工場敷地内にある跡地には碑が残されており、敷地外の南側道路沿いから望むことが出来ます。

